

## 令和6年度岡山県歯科保健対策協議会 議事概要

日 時：令和7年1月16日（木）16：00～17：00

場 所：ピュアリティまきび 飛鳥

【議事（1）第3次岡山県歯科保健推進計画の推進状況について】

【議事（2）令和6年度岡山県口腔衛生対策事業について】

【議事（3）令和7年度歯科保健の取り組みについて】

<事務局から一括して資料により説明>

### ①妊産婦の歯科保健について

委 員：妊産婦の歯科保健指導を実施している市町村数の増加について、どんな取組をしているか。

事務局：市町村の担当者会議で取組のお願いをしていることに加え、自主的な市町村が増えている。全市町村での実施という目標達成は容易ではないが、順調に伸びており、継続して取り組んでまいりたい。

会 長：歯周病検診の受診率は1.19%と低い一方、妊婦健診は30%以上。妊婦健診が突破口になるのではないかと考えている。

### ②乳幼児期のう蝕について

委 員：乳幼児期のう蝕の格差は、学齢期以降の格差を広げる報告があるため、早い段階での対策が必要であるが、3歳児のう蝕有病率がまだ高いこと、間食回数3回以上が多い市町村があること、フッ化物歯面塗布経験が目標の75%以上を達成していないこと、地域格差があることから、県としてのアプローチを検討してほしい。

事務局：100%の経験率の市町村がある一方で、低いところでは30%台と地域格差がある。まずは地域格差縮小に向けたアプローチを検討していく。

### ③成人期の歯科保健について

委 員：成人期歯科保健における予定事業はあるか。保健所で、事業所と協力して取り組んでいる好事例がある。事業所と協力し、成果を上げてモデル化するのも一つの方法だと思う。

事務局：成人期および職域の歯科保健に力を入れていきたいが、現在予定はないため、今後検討してまいりたい。

委 員：8020の目標値を挙げているが、前段階の60歳で24本以上歯を有する者も重要な指標。データの公表予定はあるか。

事務局：中間評価として2028年に調査実施し、その後公表予定。

### ④障害のある子どもの歯科保健について

委 員：支援学校におけるGとG0に対して、1201運動との関連はどうか。

事務局：歯科衛生士会に委託している1201運動推進事業では、歯肉の炎症に対する保健指導

も含まれており、今年度は、支援学校7施設で実施している。

⑤要介護者等の歯科保健について

委 員：歯科往診サポートセンターの認知度が低いことについての対策は。

会 長：地区の歯科医師会のランチ事業として、往診サポートセンターの広報を実施している。パンフレット送付に加え、歯科医師会、地域包括支援センター、歯科診療所などの活用を検討している。往診サポートセンターの協力医の数は、施設基準が変わったことも受け、100 増加した。県内の歯科診療所の6割程度は、協力体制が整ったということである。

オブザーバー：歯科医院ごとの訪問診療実施の情報提供（一覧表など）や案内がより明確になれば、関係者に周知しやすい。

⑥その他

委 員：資料内のアンケート調査について、回収率向上のための案はあるか。

事務局：業者委託でアンケート調査を実施している。回収率向上については、次期調査に向けて検討したい。

【議事（4）岡山県フッ化物洗口モデル事業について】

＜事務局から資料により説明＞

会 長：フッ化物洗口の普及がなかなか進まないが、新見市の好事例の今後の経過、効果に注視していきたい。

委 員：フッ化物の普及のための教育委員会との連携についてはいかがか。

事務局：連携をはかり、様々なコミュニケーションをはかりながら進めている。他県の例や、希釈不要の洗口剤なども紹介しながら、お互い良い関係を築きながら進めていきたい。

会 長：学校現場の理解もできる。ネグレクトの子の口の中も問題もあり、歯科保健だけの問題でなく、社会問題として、県として取り組む課題であると認識している。

【その他】

委 員：1201 運動において、情報共有により事業格差が出ないように工夫している。今後の予定および事業効果についても報告があった。

会 長：今後も歯科医師会と歯科衛生士会は協力して、歯科口腔保健を推進していきたい。歯科健診をはじめ、市町村をまたいだ母子保健の充実が必要ではないか。口腔の健康が全身の健康にかかわるのは、周知の事実。今後も様々な面で医科歯科連携を強化していきたい。

オブザーバー：訪問診療の認知度が低い、主治医意見書の欄外に歯科受診の必要性を記載することで歯科の受診に繋がると思う。医科歯科連携を進める上で言語の共通化が必要である。

閉会